



〔シリーズ学会訪問〕～J-STAGE 利用学協会様の声～

〔日本素材物性学会様〕

本号では、日本素材物性学会会長である秋田大学大学院工学資源学研究科の濱田文男教授と佐藤英之事務局長様を訪問させていただきました。日本素材物性学会様は、昭和63年に設立され、1988年に和文誌「素材物性学雑誌」を1993年に英文誌「International Journal of the Society of Materials Engineering for Resources」を創刊、2誌とも創刊号よりJ-STAGEで公開されています。

一 濱田先生のお立場についてお願いします。

平成 15 年より当学会の 3 代目として学会長を務めています。平成 24 年からは編集委員長の二束の草鞋で活動しています。

一 貴学会の特色と刊行誌についてご紹介をお願いします。

日本素材物性学会は、昭和 63 年に研究会として、平成 2 年 4 月に現行の学会名に発展的に変更し現在に至っています。発足には当時の秋田大学鉱山学部の教員を中心に学会を立ち上げ、「細分化されている、これまでの諸工学分野を再精査し、個々の分野における別々の考え方を新しい概念に統合することにより素材に工学的問題の総合的ならびに地球規模的な課題の解決に寄与する」ことを設立の目標に掲げています。秋田の地域性から研究分野が鉱山資源を中心に展開してきました。それが特に昨今のエネルギー・資源問題と呼応し、その重要性は高まっていると考えています。

本学会では、4年毎に秋田市を会場に素材物性学国際会議「International Conference on Materials Engineering for Resources」を開催しています。1991年からスタートし2009年の開催で6回を数えています。本年11月20日から3日間、第7回目をやはり秋田で開催する予定です。会議には海外から20カ国以上の参加を予定しています。年会も秋田で6月に開催しており、地域に根ざした学会活動をしている、ある意味でユニークな学会だと思います。

学会誌は季刊号として和文誌・英文誌の計4巻を発刊し、オープンアクセス誌としてJ-STAGEで公開しています。

一 電子ジャーナル化への取組みとJ-STAGEをご利用になってのご感想をお聞かせください。(良い点、悪い点など)

地域に密着した学会ということから会員層が限定される傾向にあり、会員数の増加が進まずWeb上での公開の必要性を認識していました。J-STAGEでの論文公開できることが分かり全文公開に移行しました。J-STAGEは無料で外国からもアクセスでき、アクセス数が増加しました。さらに海外からの英文誌への投稿数増が期待されるなど、学会誌のアピールとなっているので満足しています。また、新システムでJournal@rchiveと統合したことは非常に良かったです。

ただ、当学会としてJ-STAGEの機能を十分に活用できていない部分があり、これからはいかに有効にJ-STAGEを活用して学会の発展に寄与できるかが課題です。本年、J-STAGEで公開を開始して初めて国際会議を開催することを契機に会員数の増加を図って行くことを考えています。また、投稿審査システムの利用を検討しています。

J-STAGEとの連携でインパクトファクターに掲載されるべき良い論文の発信に努めたいと思います。

一 日本の学術出版業界を巡る状況についてはどう思われますか。また、今後J-STAGEが果たすべき役割についてはいかがでしょうか。

良い論文を日本から発信するためにはJ-STAGEの活用が鍵になるのではないのでしょうか。J-STAGEとして搭載ジャーナルを世界にどう発信していくか、そのような機能に期待します。また、登載誌については教育分野のものや技術書を含め網羅的に収録するとともに新規性の高いジャーナルを公開して欲しいと思います。

地域性の高い学会としてはJ-STAGEの強力な支援を期待したいです。

一ありがとうございました。ご指摘については今後も検討してまいります。より使いやすいシステムとなるよう頑張っ参ります。貴学会のますますのご発展をお祈りいたします。



日本素材物性学会
事務局
佐藤 英之様

日本素材物性学会会長
秋田大学大学院教授
濱田 文男 様